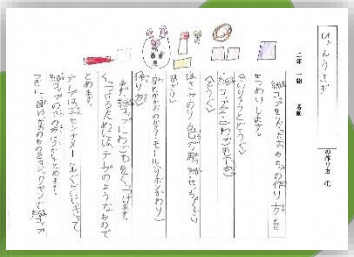
令和2年度　教育論文

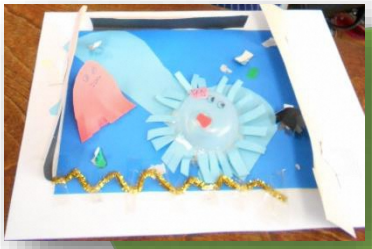
自立し生活を豊かにしていく児童の育成を目指して

～生活科を中核にしたカリキュラム・デザインを通して～

生活科



国語



図画工作

教科・領域	生活科
学校名	益城町立広安西小学校
氏名	稲葉　典花

はじめに

今年度から，新学習指導要領が全面実施となりました。平成28年12月の「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では，「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことが求められ，この答申を受けて改訂された新学習指導要領総則編の中でも，「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。」と明記されています。

４月よりスタートした「熊本の学び」においても，「カリキュラム・マネジメント」の推進は四つの基本方針の一つ目に掲げられており，私たち教職員が最も大切にしていかなければならない視点だということを改めて認識しています。

昨年度は，生活科の取組を自身の教科教育研究の中心に据え，授業力向上及び自立し生活を豊かにしていく児童の育成に努めてきました。気付きの質を高める工夫を中心として実践を積んでいく中で，生活科という狭い範囲で教育活動を捉えていたことを省み，「カリキュラム・マネジメント」の一側面である「カリキュラム・デザイン」の視点で捉え直す必要性に気付きました。

そこで，今年度は，「カリキュラム・デザイン」の視点で教育活動全体を整理し，自身の研究を進めていきたいという思いを強くしました。低学年の教育における生活科の役割を自覚し直し，生活科を中核にした教育活動の展開に試行錯誤しながら取り組みました。ここに論文としてまとめ，たくさんのご意見をいただき，今後ますます研究を進めてまいりたいと考えています。ご指導のほど，よろしくお願いいたします。

目　次

Ⅰ　研究主題について　……　p1
　１　研究主題　……　p1
　２　研究主題設定の理由　……　p1
　３　研究主題についての捉え方　……　p4

Ⅱ　研究の方法　……　p5
　１　研究の仮説　……　p5
　２　研究の視点と内容　……　p5
　３　研究の構想図　……　p5

Ⅲ　研究の内容　……　p6
　１　視点１　グランドデザインと生活科教育をつなぐ　……　p6
　２　視点２　生活科とその周辺をつなぐ　……　p6
　３　視点３　生活科の授業と（で）つなぐ　……　p8

Ⅳ　研究のまとめ　……　p18
　１　事前アンケートと事後アンケートの比較　……　p18
　２　仮説の検証(視点ごとの振り返り)　……　p19
　３　本研究全体の成果と課題及び改善策　……　p20

おわりに
引用・参考文献

Ⅰ　研究主題について

１ 研究主題

自立し生活を豊かにしていく児童の育成を目指して

～生活科を中核にしたカリキュラム・デザインを通して～

２ 研究主題設定の理由

（1）学習指導要領改訂の動向から

今年度から新学習指導要領が全面実施となった。今回の改訂では，総則において生活科の位置付けがこれまで以上に明確になり，総則の第2「教育課程の編成」の4「学校段階等間の接続」の（1）において次のように示されている（下線は筆者によるもの）。

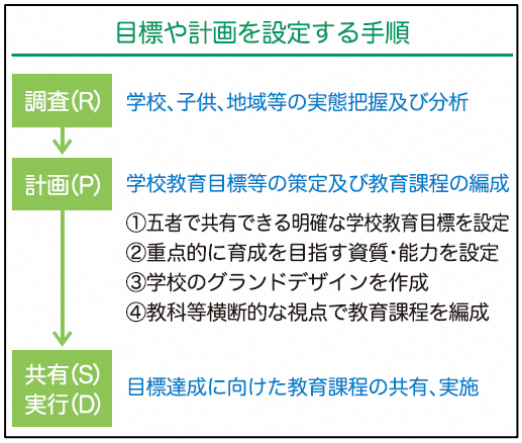
> （1） 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより，幼稚園教育要領に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し，児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向うことが可能となるようにすること。
> 　また，低学年における教育全体において，例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が，他教科等の学習においても生かされるようにするなど，教科等間の関連を積極的に図り，幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に，小学校入学当初においては，幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが，各教科等における学習に円滑に接続されるよう，生活科を中心に，合科的・関連的な指導や弾力的な時間割設定など，指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

以上から，低学年の教育の中核に生活科があり，幼児期の教育との接続はもちろん，他の全ての教科等との関連，中学年以降の教科等との接続を円滑に図ることが明示されたと言える。これは，低学年の教育において，生活科教育を中核にしたカリキュラム・デザインを行うことの必要性と意義を示していると言い換えることができる。

（2）熊本の学び推進プランから

今年度4月から「熊本の学び」がスタートした。熊本の学び推進プランの理念は「熊本のすべての子供たちが，『学ぶ意味』を問いながら，『能動的に学び続ける力』を身に付けることを目指します。」とあり，四つの基本方針の一つ目に，「教育活動の質を向上させ，学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進」が掲げられている。

カリキュラム・マネジメントを推進するには，全教職員でグランドデザインを作成し（【資料１】の③），教科等横断的な視点で教育課程を編成していくこと（【資料１】の④）が重要である。本研究では，それらに焦点を当て，その成果や改善点を洗い出していく。



【資料１】「熊本の学び推進プラン」より

（３）本校の教育目標の具現化と児童の実態から

本校の教育目標は，「かしこく　やさしく　たくましい　広安西の子の育成」である。また，目指す児童像と育成を目指す資質・能力として，以下のものを挙げている。

【目指す児童像】
〇夢や希望を持ち，自分のよさや友達のよさに気付き，認め合える子ども【気付く】
〇いろいろなことに関心を持ち，自らの目標を立てて取り組む子ども【考える】
〇友達と学び合い，目標に向けて粘り強く取り組む子ども【伸ばす】

【育成を目指す資質・能力】

考える力
①基礎・基本を身に付け，課題解決のために，自ら考え，計画的に調べ，判断し，伝え合って解決することができる。
②粘り強くあきらめないで取り組むことができる。

思いやる力
①自分とともに他の人も大事にすることができる。
②時と場に応じた言葉遣いや行動ができる（あいさつ，返事，敬語，ルール・マナー）。

命を守る力
①自分の心身の健康に気を付け，生活ができる。
②安全に生活するための知識を身に付け，行動することができる。

つながる力
①地域の方から見守られていることに，感謝の気持ちを持つことができる。
②学習支援ボランティア等の方と積極的に関わり，自己を高めることができる。

また，本研究の対象となる2年1組の児童33名に，育成を目指す資質・能力に関して，自己評価アンケートを行った。アンケート項目と結果は，次のページのとおりである（【資料２・３】）。この結果から，育成を目指す資質・能力の中の「考える力」が，他の三つの力と比べると弱いことが分かる（【資料２】下線部，【資料３】赤色部）。

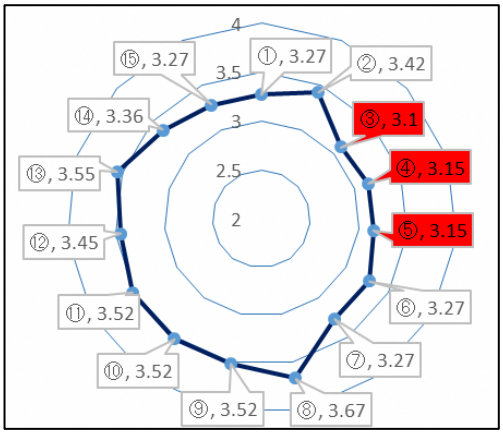
そして，生活科の自立の姿についても，自己評価アンケートを行った。アンケート項目と結果は，次のページのとおりである（【資料４・５】）。この結果からは，学習上の自立に向けた力が，他の二つと比べると弱いことが分かる（【資料４】下線部，【資料５】赤色部）。

自立の姿については，「3　研究主題についての捉え方」で詳しく述べるが，学習上の自立に向けた力は，本校が育成を目指す資質・能力の「考える力」と重なる部分が多い。つまり，児童の実態から，学習上の自立に向けた力を伸ばし，「考える力」を伸ばしていく必要があることが明確になった。

以上から，学校教育目標を具現化していくためには，生活科を中核とし，年間を通してカリキュラムをデザインしていくことが有効であると考える。

考える力	①基本的な学習は分かっているか。 ②問題を解決するために自分で考えているか。 ③問題を解決するために自分で計画して調べているか。 ④自分で判断しているか。 ⑤考えたことや調べたことを友達と伝え合っているか。 ⑥学習に対してあきらめずに取り組んでいるか。
思いやる力	⑦自分のことを大切にしているか。 ⑧友達のことを大切にしているか。 ⑨正しい言葉遣いや行動ができているか。
命を守る力	⑩健康に気を付けた生活ができているか。 ⑪安全に生活するためにどうしたらいいか分かっているか。 ⑫安全に生活ができているか。
つながる力	⑬地域の方に感謝の気持ちを持っているか。 ⑭学校に来てくださる地域の方に進んで挨拶しているか。 ⑮地域の方と一緒に学習することで自分を成長させているか。

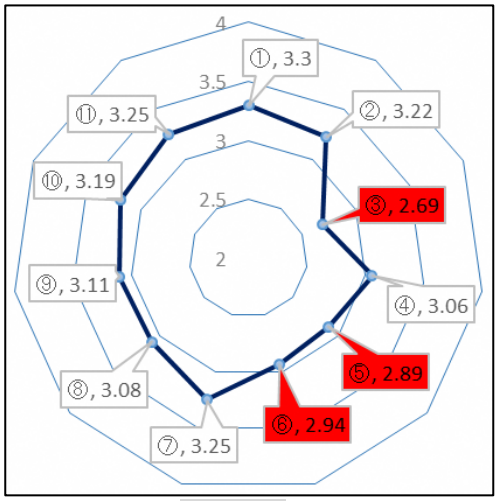
【資料2】育成を目指す資質・能力に関するアンケート項目



【資料3】
育成を目指す資質・能力に関する
児童の自己評価（令和2年6月実施）
※4段階評価の平均値

自立	質問項目
学習上	①生活の時間，どうしてこうなるのか考えているか。
	②生活の時間，どうしたらうまくできるか，考えているか。
	③生活の時間，分からないことを先生や友達と話し合って，もっといい方法が見つかったことがあるか。
	④生活の時間，楽しかったことや気付いたことを，絵や文で表すことに自信があるか。
	⑤生活の時間，友達の発表を聞いて，質問や感想を言っているか。
	⑥生活の時間，勉強して分かったことを家の人や友達に進んで伝えているか。
	⑦生活の時間，学習に進んで取り組むことができているか。
生活上	⑧生活の時間，できるようになったことを元にして，もっとよくしたいと思っているか。
	⑨生活の時間，勉強してできるようになったことを，家や学校でもやっているか。
精神上	⑩生活の時間，自分のいいところや成長したところに気付いたことがあるか。
	⑪生活の時間，先生や友達からほめられたり励まされたりして，もっと頑張ろうという気持ちになるか。

【資料4】生活科の自立の姿に関するアンケート項目



【資料5】
生活科の自立の姿に関する
児童の自己評価（令和2年6月実施）
※4段階評価の平均値

３　研究主題についての捉え方

（1）主題「自立し生活を豊かにしていく児童の育成を目指して」について

新小学校学習指導要領解説生活編では，「自立」とは，「一人一人の児童が幼児期の教育で育まれたことを基礎にしながら，将来の自立に向けてその度合いを高めていくこと」とされ，「自立し生活を豊かにしていくことは，生活科における究極的な児童の姿である。」と述べられている。また，「創設以来，生活科では学習上の自立，生活上の自立，精神的な自立という三つの自立への基礎を養うことを目指してきた。」とあり，以下のように定義されている。

> 学習上の自立とは，自分にとって興味・関心があり，価値があると感じられる学習活動を自ら進んで行うことができるということであり，自分の思いや考えなどを適切な方法で表現できるということである。
> 生活上の自立とは，生活上必要な習慣や技能を身に付けて，身近な人々，社会及び自然と適切に関わることができるようになり，自らよりよい生活を創り出していくことができるということである。
> 精神的な自立とは，上述したような自立へと向かいながら，自分のよさや可能性に気付き，意欲や自信をもつことによって，現在及び将来における自分自身の在り方を求めていくことができるということである。

「生活を豊かにしていく」とは，「生活科の学びを実生活に生かし，よりよい生活を創造していくことである。それは，実生活において，まだできないことやしたことがないことに自ら取り組み，自分でできることが増えたり活動の範囲が広がったりして自分自身が成長することでもある。」と述べられている。また，「豊か」とは，「自分の成長とともに周囲の関わりやその多様性が増すことであり，一つ一つの関わりが深まっていくことである。そして，自分自身や身近な人々，社会及び自然が一層大切な存在になって，日々の生活が楽しく充実したり，夢や希望が膨らんだりすることである。」と述べられている。

つまり，本研究において，「自立し生活を豊かにしていく児童」の姿は，「生活科で養った自立への基礎を実生活に生かし，よりよい生活を創造していく児童」と捉える。

（2）副題「生活科を中核にしたカリキュラム・デザインを通して」について

カリキュラム・マネジメントには，①教育内容の組織的配列（＝「カリキュラム・デザイン」），②PDCAサイクル，③内外の資源の活用という三つの側面があり。つまり，副題にある「カリキュラム・デザイン」とは、カリキュラム・マネジメントを構成する一要素でもある。

さらに，カリキュラム・デザインには三つの階層があり，①グランドデザイン→②単元配列表→③単元と，より具体的になっていく。すなわち，カリキュラム・デザインは，教育活動全体の関係（グランドデザイン）から学年の学習活動を俯瞰し（単元配列表），一連の学習活動のまとまり（単元）を描くことであると言い換えることができる。

本研究では，生活科を中核としたカリキュラム・デザインを考えていくので，グランドデザイン，とりわけ育成を目指す資質・能力と生活科教育との関わりを明らかにし，生活科を中核として学年の学習活動を単元配列表に整理して，研究を進めていくこととした。

Ⅱ　研究の方法

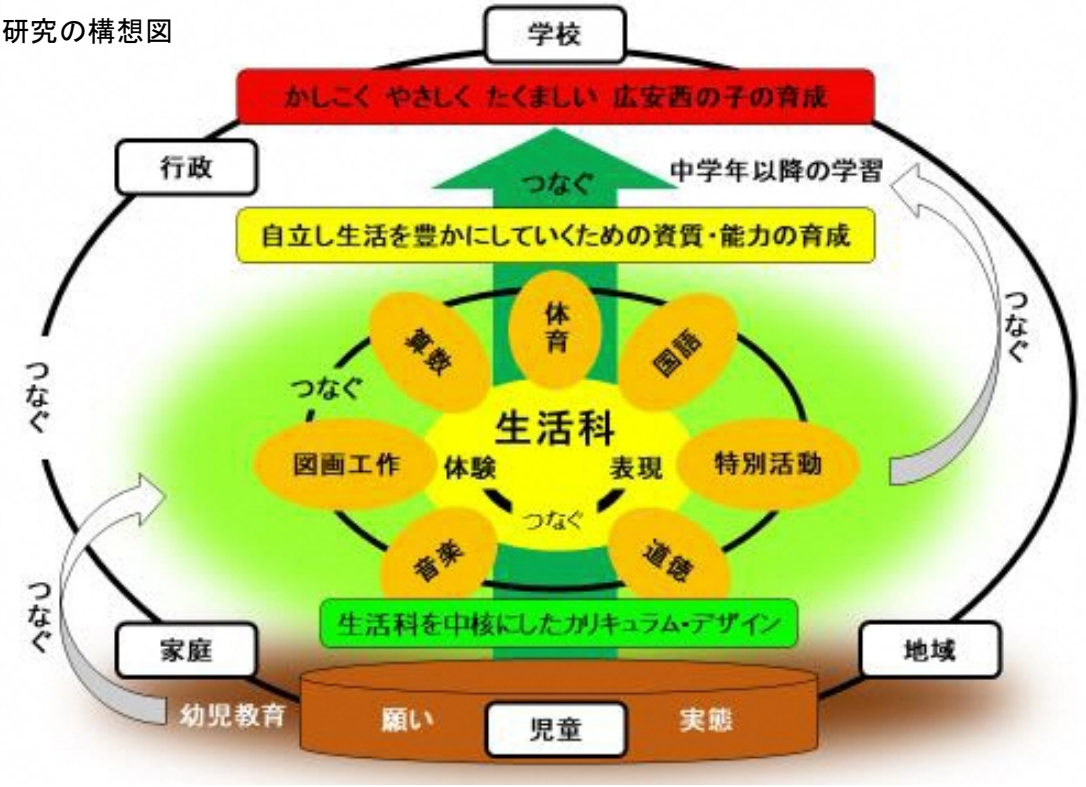
1　研究の仮説

「つなぐ」ことを意識し，生活科を中核としたカリキュラム・デザインを行えば，深い学びが実現され，自立し生活を豊かにしていく児童が育成されるだろう。

2　研究の視点と内容

視点	内容
(1)**グランドデザインと生活科教育をつなぐ**	○育成を目指す資質・能力と生活科教育の関連の整理
(2)**生活科とその周辺をつなぐ** **①生活科と他教科等を横につなぐ** **②生活科と幼児教育・中学年以降の学習を縦につなぐ**	○生活科を中核とした単元配列表の作成 ○児童と作る生活科の年間構想と，身に付けた力の可視化 ○幼児教育・中学年以降の学習との接続の整理
(3)**生活科の授業と（で）つなぐ** **①単元と単元，授業と授業をつなぐ** **②授業と人的・物的資源をつなぐ** **③体験と表現をつなぐ**	○単元構想 ・合科的・関連的指導（＝教科横断的な指導） ・学校内外の人的・物的資源の発掘と活用 ・気付きの質を高めるための工夫

3　研究の構想図

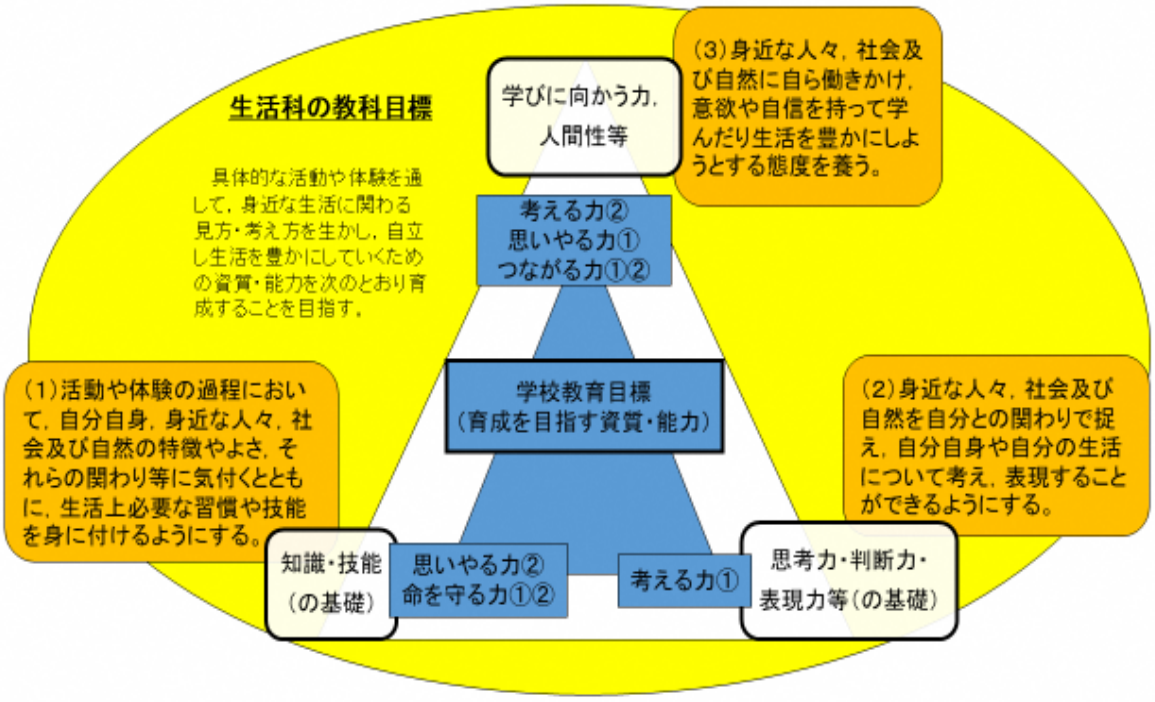


Ⅲ　研究の内容

1　視点１　グランドデザインと生活科教育をつなぐ

グランドデザインと生活科教育の関連を明らかにするために，「知識及び技能（の基礎）」「思考力，判断力，表現力等（の基礎）」「学びに向かう力，人間性等」の視点で，本校が育成を目指す資質・能力と生活科の目標をそれぞれ整理した（【資料６】）。

また，「２　研究主題設定の理由」で指摘した本学級児童の「考える力」の弱さは，「思考力，判断力，表現力等（の基礎）」に当たることを，ここで確認しておきたい。



【資料６】グランドデザインと生活科教育の整理図

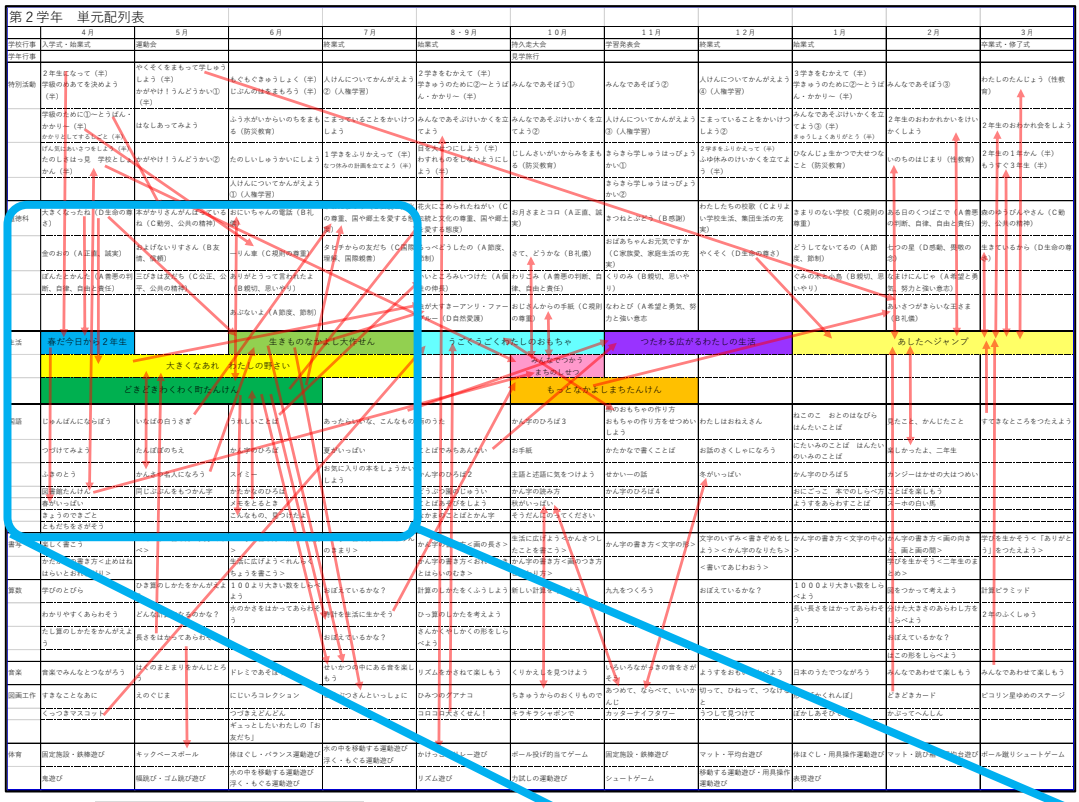
※図中の資質・能力の後の番号は，p2「育成を目指す資質・能力」の番号と一致

2　視点２　生活科とその周辺をつなぐ

（1）生活科を中核とした単元配列表の作成

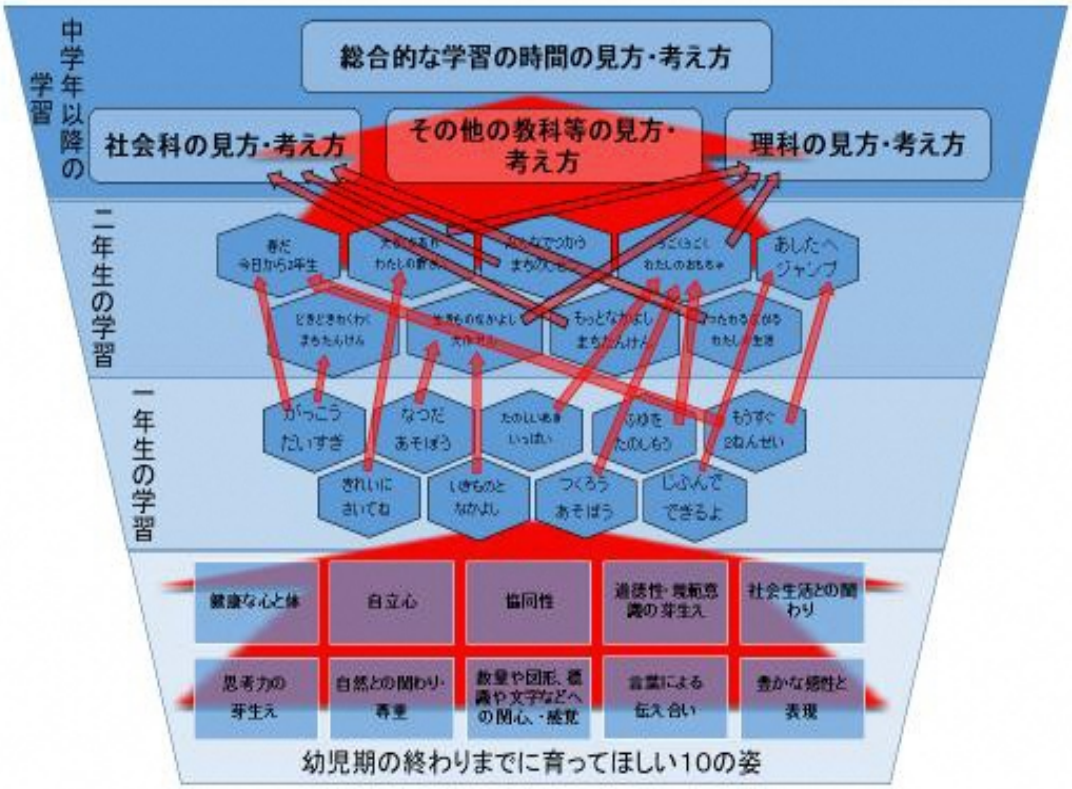
各教科等で身に付けた力を生活科のどこで生かすか，また，生活科で身に付けた力を各教科等でどのように生かすかを矢印でつなぎ可視化した単元配列表を作成した（p7【資料７】）。生活科は低学年教育の中核であることを踏まえ，単元配列表の中央に配置している。これは令和２年４月に作成したが，休校期間もあり，必要に応じて修正しながら活用していった。

単元構想の際は，この単元配列表を参考にし，合科的・関連的指導にも生かした。合科的・関連的指導については，「３　視点３　生活科の授業と（で）つなぐ」で述べる。


第２学年　単元配列表
4月
5月
6月
7月
8・9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月
学校行事
入学式・始業式
運動会
終業式
始業式
持久走大会
学習発表会
終業式
始業式
終業式・修了式
学年行事
見学旅行
特別活動
2年生になって（半）
学級のあなでを決めよう（半）
やくそくをまもって学しゅうしよう（半）
かがやけ！うんどうかい①（半）
もくもくきゅうしょく（半）
じぶんの分をまもろう（半）
1くみ人けんについてかんがえよう②（人権学習）
2学きをむかえて（半）
学きゅうのために②～とうばん・かかり～（半）
みんなであそぼう①
みんなであそぼう②
人けんについてかんがえよう③（人権学習）
3学きをむかえて（半）
学きゅうのために②～とうばん・かかり～（半）
みんなであそぼう③
みんなであそぼう
わたしのたんじょう（性教育）
学級のために③～とうばん・かかり～（半）
はなしあってみよう
うちがかからいのちをまもる（防災教育）
こまっていることをかいけつしよう
みんなでなやみをかいけつしよう（半）
みんなであそぼうけいかくを立てよう②
人けんについてかんがえよう③（人権学習）
こまっていることをかいけつしよう②
2学きをむかえて（半）
まずうしょくありがとう（半）
みんなでなやみをかいけつしよう③（半）
ひなんじょ生かつで大せつなこと（防災教育）
2年生のおわかれかいをけいかくしよう
2年生のおわかれ会をしよう
たのしいしゅうまつをしよう
たのしまは見　学校とし
かがやけ！うんどうかい②
たのしいしゅうかいにしよう
1学きをふりかえって（半）
なつ休みの計画を立てよう（半）
おわれるのをこわいようにしよう（半）
ふゆ休みのけいかくを立てよう（半）
きらきら学しゅうほっぴょうかい①
いのちのはじまり（性教育）
2年生の1年かん（半）
もうすぐ3年生（半）
きらきら学しゅうほっぴょうかい②
1くみ人けんの①（人権学習）
道徳科
大きくなったね（D生命の尊さ）
本がかりさんがんばっているね（C勤労、公共の精神）
おにいちゃんの電話（B礼儀）
の尊重、国や郷土を愛する態度）
花火にこめられたねがい（C郷土と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）
お月さまとコロ（A正直、誠実）
きつねとぶどう（B感謝）
わたしたちの校歌（Cよりよい学校生活、集団生活の充実）
きまりのない学校（C規則の尊重）
ある日のくつばこで（A善悪の判断、自律、自由と責任）
命のゆうびんやさん（C勤労、公共の精神）
金のおの（A正直、誠実）
お上げないりすさん（B友情、信頼）
一りん車（C規則の尊重）
ぶつけてからのあだち（C国際理解、国際親善）
べんきょうしたの（A節度、節制）
いところみいつけた（A個性の伸長）
ありがとう（A善悪の判断、自律、自由と責任）
おばあちゃんお元気ですか（C家族愛、家庭生活の充実）
さて、どうかな（B礼儀）
ありがとうって言われたよ（B親切、思いやり）
やくそく（D生命の尊さ）
どうしてないてるの（A節度、節制）
1つの星（D感動、畏敬の念）
ぼくたちかんこう（A善悪の判断、自律、自由と責任）
ありがとうって言われたよ（B親切、思いやり）
あぶないよ（A節度、節制）
おじさんからの手紙（C規則の尊重）
なわとび（A希望と勇気、努力と強い意志）
くみのあたま出（B親切、思いやり）
なぜけにんじゃ（A希望と勇気、努力と強い意志）
あいさつがきらいなヨさま（B礼儀）
生活
春だ今日から2年生
生きものなかよし大作せん
うごくうごくわたしのおもちゃ
つたわる広がるわたしの生活
あしたへジャンプ
大きくなあれ　わたしの野さい
ふしぎをつかう
まちたんけん
どきどきわくわく町たんけん
もっとなかよしまちたんけん
国語
じゅんばんにならぼう
いなばの白うさぎ
うれしいことは
あったらいいな、こんなもの
つづけてみよう
たんぽぽのちえ
かん字のひろば3
夏がいっぱい
ふきのとう
かんさつ名人になろう
スイミー
同じしぶんをもつかん字
かたかなのひろば
メモをとるとき
こんなもの、どうやってつくる
春がいっぱい
きょうのできごと
ともだちをさがそう
<書くことの作り方>
おもちゃの作り方をせつめいしよう
かたかなで書くことば
お話のさくしゃになろう
<文がいっぱい>
ねこのこ　おとのはなびらはんたいことば
にたいみのことば　はんたいみのことば
<書いてあじわおう>
見たこと、かんじたこと
楽しかったよ、二年生
オンジーはかせの大はつめい
初こつこつ　一本やのしゃちょう
ようすをあらわすことば
<文がいっぱい>
すてきなところをつたえよう
<書き方>
<文の書き方>
<文の書き方>
<文の

（3）幼児教育・中学年以降の学習との接続の整理

生活科は教育課程の結節点であるという位置付けから，縦の視点での整理を行った（【資料9】）。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を土台とし，1・2年生の生活科の学習や中学年以降の教科等との接続を考える際に，主要となる関連事項を矢印で結んでいった。ここで注意したいのは，各学年段階で身に付けた資質・能力が，次学年のどの資質・能力，または各教科等の見方・考え方につながっていくかという視点で整理したということである。単元配列表も同様だが，扱う内容の関連でなく，あくまで資質・能力，見方・考え方のつながりを意識して整理することが大切だと考えている。



【資料9】 縦のつながり図

3 視点3 生活科の授業と（で）つなぐ

（1）単元構想のポイント

視点1・2を踏まえ，単元構想を行った。その際のポイントは，以下の3点である。

①単元と単元，授業と授業をつなぐ（合科的・関連的指導＝教科横断的な指導）
②授業と人的・物的資源をつなぐ（学校内外の人的・物的資源の発掘と活用）
③体験と表現をつなぐ（気付きの質を高めるための工夫）

以下，ポイント①～③を明確にしながら，単元構想と取組の実際を紹介する。また，本校の今年度の方針として，異学年交流と外部の方との接触は基本的に行わないことになっている。

（2）実践①「大きくなあれ　わたしの野さい」（6～12月）

ア　単元構想

本単元で育成する資質・能力		
知識・技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	主体的に学習に取り組む態度
植物を栽培する活動を通して，植物が生命をもっていることや成長していることに気付いている。	植物を栽培する活動を通して，植物の変化や成長の様子に関心を持って働きかけている。	植物を栽培する活動を通して，生き物に親しみを持ち，大切にしようとしている。
単元構想の材料		
【児童の実態，学校・地域の特色】	【材の価値分析】	【教師の意図】
1年時にはアサガオやビオラ・チューリップの栽培を経験した。就学前や家庭で野菜の栽培を経験している児童も多い。 学校の周りは住宅が多いが，畑も点々とある。毎年，サツマイモ栽培に協力してくださる地域の方がいらっしゃる。	食を扱う学習材で，児童にとってとても身近である。栽培活動は毎日のことであり，体験を日常的に積み重ねることができる点も，児童の気付きの質を高めていくことに大変有効であると考える。	常時活動の中で，体験と表現の繰り返しを仕組みやすい。表現の場を工夫することで，気付きの質を高めたい。また，地域人材の活用により，「つたわる　広がる　わたしの生活」の単元へもつなげていきたい。

資質・能力を育成する指導上の工夫（単元構想のポイント）		
①【主な合科的・関連的指導】	②【人的資源の活用】	③【気付きの質を高める工夫】
・国語「かんさつ名人になろう」 ・算数「長さをはかってあらわそう」 ・道徳「虫が大すき－ｱﾝﾘ･ﾌｧｰﾌﾞﾙｰ」 ・3年理科へのつなぎ	・地域の野菜名人との出会い ・果樹園での収穫体験と生産者との関わり（見学旅行）	・朝の会の「野菜コーナー」 ・観察カードの活用（掲示コーナーの設置）

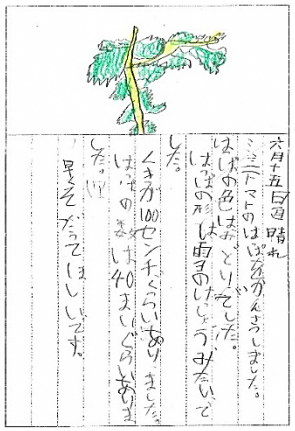
単元計画	時数	学習内容
1　夏の野さいをそだてよう	6	育ててみたい夏野菜を調べ，育てる野菜を決定し，苗を植える。（一人一鉢，学級園，芋畑）
2　野さいのせわをつづけよう	3	観察，脇芽摘み・肥料やり・草取り・支柱立てなどの世話，及び観察カードの記入・発表
3　野さいをしゅうかくしよう	1	収穫，観察カードの記入・発表
4　野さいのことをまとめよう	1	観察カードのまとめ・発表・振り返り
5　冬の野さいをそだてよう	1	育ててみたい冬野菜を調べて，育てる野菜を決定し，種をまく。（学級園）
6　野さいのせわをつづけよう	2	畑の草取りなどの世話（学級園，芋畑）
7　くだものを作っている人に会いに行こう ※時数のうち1時間は行事	2	果樹園に出かけ，収穫体験や生産者へのインタビューを行い，気付いたことをまとめる。
8　野さいをしゅうかくしよう	2	収穫，観察カードの記入・発表
9　野さいのことをまとめよう	1	まとめ・振り返り

イ　取組の実際

①　合科的・関連的指導

国語「かんさつ名人になろう」と合科的指導を行い，生活科で観察したことを，国語でまとめていった（【資料10】）。観察の際は長さなどをものさしで測り，算数との関連的指導も行った。

また，生き物への親しみの心は，道徳「虫が大すき―アンリ・ファーブル―」の学習にもつながった。



【資料10】 国語「かんさつ名人になろう」

②　人的資源の活用

感染症対策について条件が整い，毎年畑をお貸しくださる地域の〇〇様と一緒に，今年度もサツマイモの栽培を行えることになった（p10【資料11】）。苗の植え方を教えていただいたり，収穫の際のお手伝いをしてくださったりし，その中で児童は交流を深めていっ

た。この関わりは，「つたわる　広がる　わたしの生活」にもつながった。

また，見学旅行では果樹園を訪れ，生産者に栽培の苦労等をインタビューしたり，実際に収穫体験をしたりして，植物の生命や成長について新たな気付きを得ていった。

【資料11】 苗植えの様子

③　気付きの質を高めるための工夫

朝の会で「野菜コーナー」を設け，野菜の変化について毎日報告を行った。「僕のミニトマトに黄色の花が咲いていました。」と発表者が言えば，朝の会後に多くの児童が自分の鉢を見に行き，成長の様子を確かめ，せっせと水をやる姿が見られた。朝の会で表現の場があることで，体験と表現を繰り返す回数が増え，細かい変化にも気付くようになった。

【資料12】 掲示コーナー

また，一人一鉢のミニトマトの栽培で観察カードをかいていくことにとどまらず，学級園で育てた野菜6種についても，自由に観察カードをかけるようにし，カードを掲示して，成長の様子を共有できるようにした（【資料12】）。

（3）実践②「生きもの　なかよし　大さくせん」（6～8月）

ア　単元構想

本単元で育成する資質・能力		
知識・技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	主体的に学習に取り組む態度
動物を探したり飼育したりする活動を通して，動物が成長していることや，生命をもっていることに気付いている。	動物を探したり飼育したりする活動を通して，動物の育つ場所や，変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	動物を探したり飼育したりする活動を通して，動物への親しみをもって，生き物を大切にしようとしている。
単元構想の材料		
【児童の実態，学校・地域の特色】	【材の価値分析】	【教師の意図】
1年生の時にも生き物の飼育活動を行っており，児童の関心は非常に高い。 1年生の時に扱わなかった水辺の生き物にも出会わせたかったが，学校に池はなく，学校近くの川での生き物との触れ合いは，安全上難しい。	生き物は児童にとって身近であり，本単元に限らず，年間を通して学校でも地域でも繰り返し関わりが持てるものである。生き物のお世話をしていく中で，児童の気付きの質を高めていくことが十分期待できると考える。	常時活動の中で，体験と表現の繰り返しを仕組みやすい。また，生き物紹介カードを1年生にプレゼントするという単元のゴールを設定することで，学習がより深まると考える。さらに，生き物のみでなく，それを取り巻く自然環境についても捉えていってほしい。

資質・能力を育成する指導上の工夫（単元構想のポイント）		
①【主な関連的指導】	②【人的資源の活用】	③【気付きの質を高める工夫】
・図工「どうぶつさんといっしょに」 ・道徳「虫が大すき-ｱﾝﾘ･ﾌｧｰﾌﾞﾙｰ」 ・3年理科へのつなぎ	・1年生に生き物紹介カードをプレゼントする活動を単元のゴールとして設定	・観察カードの工夫 ・朝の会の「生き物コーナー」 ・お悩み相談コーナー（掲示）

単元計画	時数	学習内容
1　生きものをさがしに行こう	1	生き物がいそうな場所について話し合い，探しに行く。
2　生きものをとりに行こう	3	生きものがいる場所やえさなどを考えて，生き物を採集しに行く。生き物のすみかや餌を整え，世話をする。また，観察カードをかく。
3　生きもののことをつたえよう	3	発表。また，1年生への生き物紹介カードとメッセージ動画制作。

イ　取組の実際

① 関連的指導

生活科の飼育活動で生き物と触れ合った経験を元にして，図工「どうぶつさんといっしょ」で絵画制作を行った。また，生き物への親しみは，道徳の自然愛護につながっていった。

② 人的資源の活用

１年生に飼育のポイントを教えるという単元のゴールを設定することで，１年生に詳しく教えられるように観察やお世話を熱心に行う姿が見られた。紹介カードを渡す際は，１年生向けのメッセージ動画も撮影し，１年生に見てもらった。

③ 気付きの質を高める工夫

視点（えさ，すみか，色や大きさ，動き，その他）ごとに色分けした観察カードを活用した（【資料１３】）。視点をたくさん持たせることで気付きの数を増やすことをねらうとともに，「見付ける」「比べる」などの多様な学習活動につながるようにした。さらに，それを元に飼育・観察（体験）と記録・発表（表現）の繰り返しを仕組んだ。

【資料13】 観察カードを綴ったひみつ手帳

また，朝の会では「生き物コーナー」を設け，生き物について気付いたことを毎日発表していった。単元「大きくなあれ　わたしの野さい」同様，友達の発表を聞いた後，虫かごをのぞきに行き，友達の生き物と自分の生き物を比べながら観察する姿などが見られ，体験と表現の繰り返しも活発に行われた。さらに，単元が終わってからも，校庭や地域で見つけた生き物についての発表が継続され，季節の変化や自然環境が生き物の生息に関わっていることにも気付いていった。

【資料14】 お悩み相談コーナー

加えて，「餌を食べてくれない。」などのお悩み相談コーナーを設けたことで，飼育の際の悩みや解決法を伝え合って交流し，お世話をすることができた（【資料１４】）。

（4）**実践③「どきどきわくわく　まちたんけん」「もっとなかよし　まちたんけん」（６～７月・９～１１月）**

ア　単元構想

本単元で育成する資質・能力		
知識・技能の基礎	**思考力・判断力・表現力等の基礎**	**主体的に学習に取り組む態度**
地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して，自分の身近な地域にはさまざまな場所があり，さまざまな人がいることに気付いている。	地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して，身近な地域の場所と自分との関わりを見付けている。	地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して，地域の場所や人に親しみをもち，適切に接したり，安全に気を付けて生活したりしようとしている。

地域の人々と関わる活動を通して，自分たちの生活は，地域のさまざまな人や場所と関わっていることや，地域の人々が地域に寄せる思いに気付いている。	地域の人々と関わる活動を通して，地域で生活したり，働いたりしている人と自分たちの生活との関わりを見付けている。	地域の人々と関わる活動を通して，地域の人々に親しみや愛着をもち，適切に接したり，安全に生活したりしようとしている。

単元構想の材料		
【児童の実態，学校・地域の特色】	【材の価値分析】	【教師の意図】
1年時には学校周辺を安全に気を付けて歩く学習を行っている。 学校から少し離れると，商店や福祉事業所，神社等の文化財もある。しかし，福祉事業所や文化財への関わりは薄い児童が多い。また，町外から移り住んだ家庭も多く，親世代も地域に詳しくない人が多い。	自分の暮らす地域は児童にとって身近であるが，知らないこともたくさんあり，場所や人と再度出会い直していけるという価値がある。1学期は場所や物と出会い，2学期はそこにまつわる人と出会っていく過程を経ると，関わりの繰り返しと気付きの質の高まりが期待できる。	直接接触が難しいので，インタビュー等の工夫の必要があるが，間接的であっても児童と地域の人とをしっかりと出会わせていきたい。 また，地域人材の活用により，「つたわる　広がる　わたしの生活」の単元へもつなげていきたい。

資質・能力を育成する指導上の工夫（単元構想のポイント）		
①【主な合科的・関連的指導】	②【人的・物的資源の活用】	③【気付きの質を高める工夫】
・国語「メモをとるとき」，「こんなもの，見つけたよ」 ・道徳「おにいちゃんの電話」，「ぎおんまつり」，「花火にこめられたねがい」 ・3年社会科へのつなぎ	・校区の商店，文化財等 ・「益城の宝」（益城町文化財保護委員会著） ・地域コーディネーター，地域の方等 ・保護者の引率支援	・グループ分けと報告会の設定 ・インタビュー活動の工夫

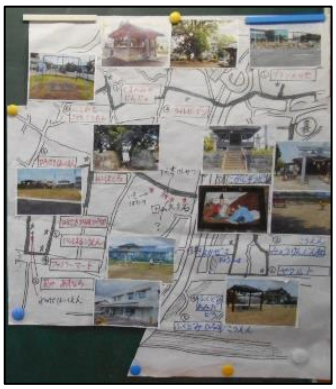
単元計画	時数	学習内容
1　まちのことを話そう	2	自分の生活している地域の中でお気に入りの場所や興味のある場所を紹介する。
2　まちたんけん①の計画を立てよう	2	探検に行きたい場所を話し合う。探検のルールやマナーを確認する。
3　まちたんけんに行こう	3	グループごとに3つのコースに分かれて探検に出かける。（保護者の引率支援）
4　見つけたことを教え合おう	2	探検で見つけたことをグループごとに振り返り，記録カードにまとめ，紹介する。また，絵地図を見ながら，発表する。
1　まちたんけん②の計画を立てよう	1	1学期の町探検①を思い起こし，もう一度探検したい場所やもっと詳しく知りたいことを出し合う。
2　まちの人となかよくなろう	2	各施設への質問動画を撮影する。または，質問の手紙を書く。（担任が各施設へインタビューに行く。）
3　なかよくなった人のことをしょうかいしよう	3	返事動画や返事の手紙を視聴し，分かったこと・考えたことをまとめ，紹介する。

イ　取組の実際

① 合科的・関連的指導

1回目の町探検前に，国語「メモをとるとき」の学習を行うとともに，町探検で見つけてきたものを国語「こんなもの，見つけたよ」でまとめていき，合科的に学習を行った。

また，道徳「おにいちゃんの電話」で学んだ礼儀も生活科の学習に生かした。そして，地域や地域の方々へ親しみや愛着は，道徳「ぎおんまつり」「花火にこめられたねがい」につながった。



【資料15】絵地図

また，3年社会科へのつなぎを考え，探検で見付けた施設等を絵地図で整理し，空間認識の広がりを意識した（【資料15】）。

② 人的・物的資源の活用

町探検は，児童の希望により，学年全体を三つのグループに分けて行った。1回目の

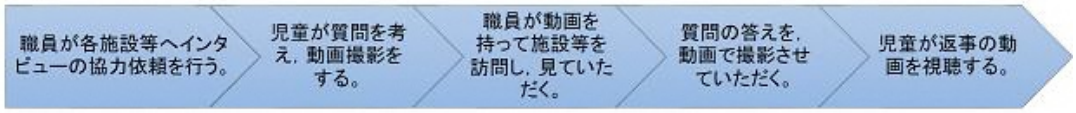
町探検は，保護者の引率協力の元，児童自らが選択したコースを巡って，施設等を見付け，公園で遊ぶ体験をして帰ってきた。

2回目の町探検は，1回目に見付けた施設等でのインタビューや体験活動等を行いたかったが，感染症予防の観点から，間接的なインタビューのみ行った。地域の人的・物的資源の活用とインタビューの流れは次のとおりである（【資料17・18】）。

【資料16】返事の動画視聴の様子

コース	協力施設	備考	インタビュー形式
A	そよかぜ作業所	福祉事業所	動画
	熊本ヤクルト益城営業所	商店　※生産の様子の動画の提供	動画
	福富地区緑地公園	益城町役場都市建設課　〇〇様	動画
	妙見神社	益城町文化財保護委員　〇〇様 ※「益城の宝」（益城町文化財保護委員会著）の紹介	手紙
	古閑地蔵堂		
B	猫伏石		
	ファミリーマート益城広崎店	商店	動画
	広崎保育園	保育施設	動画
	花屋あすなろ	商店	動画
	広崎地区避難広場	益城町役場都市建設課　〇〇様	動画
C	西脇こども公園		
	グランメッセくまもと	産業展示場	動画
	熊野宮神社（権現神社）	氏子の〇〇様，〇〇様	動画

【資料17】協力施設一覧

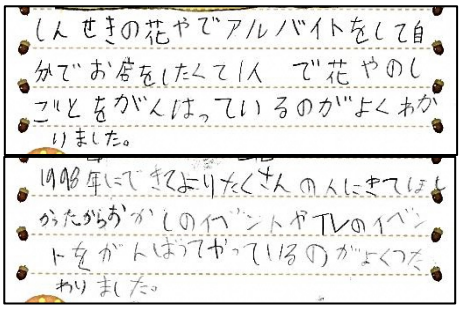


【資料18】インタビューの流れ（手紙の場合も同様）

神社などの文化財については，教育委員会や地域コーディネーターから，インタビューに協力していただける方を紹介していただいた。

③　気付きの質を高める工夫

それぞれのコースで発見したものや気付いたことなどを各クラスに持ち帰り報告会を行ったことで，行かなかったコースのことについても交流ができただけでなく，さらなる体験と表現の繰り返しも仕組むことができた。



【資料19】振り返りシート

また，インタビューは間接的であったが，人の存在を感じながら学習を進めることができたことで，児童は地域の人々の思いに気付き，親しみを持つこともできた（【資料19】）。

（5）実践④「つたわる　広がる　わたしの生活」（11～12月）

ア　単元構想

本単元で育成する資質・能力		
知識・技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	主体的に学習に取り組む態度
自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して，身近な人々と関わることのよさや楽しさに気付いている。	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して，相手のことを想像したり，伝えたいことや伝え方を選んだりしている。	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して，地域の人々に親しみをもち，進んで触れ合い，交流しようとしている。
単元構想の材料		
【児童の実態，学校・地域の特色】	【材の価値分析】	【教師の意図】
例年だと野菜の栽培と関連させて，おいもパーティーに保護者や地域の方を招待して伝え合う活動を行えたが，今年度は行えない。今年度は異学年や地域の方との交流が最小限だったので，誰かに伝えたいという意欲は高い。	これまでの生活科の学習で出会ってきた地域の方のことを見つめ直すことができ，親しみを増すことができる。また，国語科と関連的な指導を行うことで，より効果的に資質・能力の育成を図ることができる。	1年生に地域のよさ（まちのすてき）を伝えることを目的とすると，目的意識・相手意識をもって伝え合う活動を行うことができ，気付きの質の高まりが期待できる。

資質・能力を育成する指導上の工夫（単元構想のポイント）		
①【主な関連的指導】	②【人的資源の活用】	③【気付きの質を高める工夫】
・国語「あったらいいな，こんなもの」，「ことばでみちあんない」	・1年生に伝えることを単元のゴールとして設定	・表現方法の選択と発表の場の設定

単元計画	時数	学習内容
1　つたえたいな　まちのすてきなできごと	2	地域で関わった人のことを振り返り，心に残った出来事について，伝えたいことと伝える相手を決める。
2　つたえるじゅんびをしよう	4	伝えたいことと伝える相手（1年生）に適した表現方法を選び，作品を作る。また，クラスで一度発表し，作品を改良する。
3　まちのすてきをつたえよう	1	まちのすてきを伝えた感想を聞き，今までの活動を振り返る。

イ　取組の実際

【資料20】町の素敵をまとめた絵本

①　関連的指導

国語「あったらいいな，こんなもの」「ことばでみちあんない」で身に付けた話すこと・聞くことの知識・技能を，伝え合う活動で生かした。

②　人的資源の活用

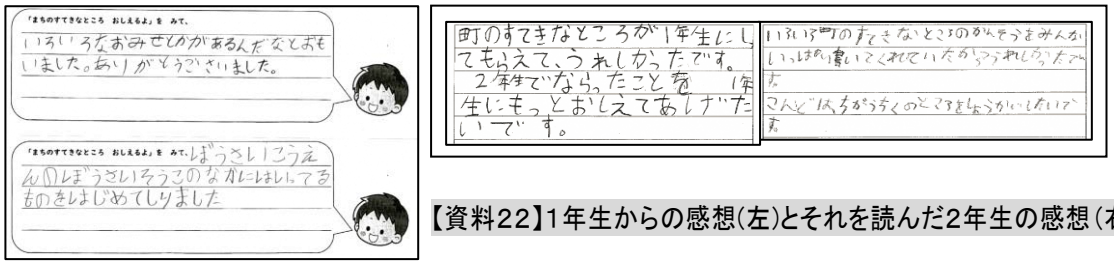
1年生に「まちのすてき」を伝えるという単元のゴールを設定することで，目的意識と相手意識を明確にして学習を進めることができた。1年生が読めるよう，ふりがなを付けたり，描く絵を選んだりしていた（【資料20】）。

③　気付きの質を高める工夫

表現方法は児童一人一人に選ばせた。ポスター，新聞，絵本，パンフレット，ニュース，ペープサートなど，多様な表現方法がとられた（【資料21】）。発表の準備や練習を行う中でアドバイスしあったり，1年生に伝える前のクラス発表での友達の反応を見て改善したりしていた。

【資料21】ニュースで紹介したグループ

１年生への発表は直接できないので，ポスター等は掲示し，ニュースやペープサートは動画撮影をしておいたものを見てもらった。１年生には感想をもらえるようにあらかじめお願いしておいた。感想を読んで，自分たちの学習を振り返り，伝えること・伝わることの喜びを感じることができた（【資料22】）。



【資料22】1年生からの感想(左)とそれを読んだ2年生の感想（右）

（6）**実践⑤「みんなでつかう　まちのしせつ」（9月）**

ア　単元構想

本単元で育成する資質・能力		
知識・技能の基礎	**思考力・判断力・表現力等の基礎**	**主体的に学習に取り組む態度**
公共物や公共施設の利用を通して，身の回りにはみんなで使う物があることや，それらを支えている人々がいることに気付いている。	公共物や公共施設の利用を通して，公共物や公共施設のよさを感じたり，働きを捉えたりしている。	公共物や公共施設の利用を通して，公共物や公共施設を大切にし，正しく安全に利用しようとしている。
単元構想の材料		
【児童の実態，学校・地域の特色】	【材の価値分析】	【教師の意図】
隣の校区に益城町児童館がある。利用経験がある児童は半数程度であった。また，益城町にはJRは通っていない。見学旅行で熊本駅を利用する経験は貴重な機会になると考える。	児童館という子供が利用する公共施設を扱うことにより，より具体的に捉えていけると考えている。また，見学旅行では熊本駅を行程に組み込み，公共交通機関での学習も仕組みたい。	感染症の影響で，児童の児童館利用はかなわなかったが，オンライン会議システムを利用してのインタビュー活動を通して，本単元のねらいの達成に向かっていける。

資質・能力を育成する指導上の工夫（単元構想のポイント）		
①【主な関連的指導】	②【人的・物的資源の活用】	③【気付きの質を高める工夫】
・道徳「さて，どうかな」，「おじさんからの手紙」 ・国語「図書館たんけん」 ・学活「たのしさはっ見　学校としょかん」	・益城町こども未来課と児童館の協力 ・熊本駅の見学	・事前学習とオンライン会議システムを利用したインタビュー活動 ・学習のまとめの視点

単元計画	時数	学習内容
1　じどうかんのことをしろう	2	児童館について知っていることを出し合ったり，映像を視聴したりし，公共施設を利用する際のルールやマナーについて確認する。
2　じどうかんのことを聞いてみよう	3	児童館と学校をオンライン会議システムでつなぎ，児童館職員さんにインタビューする。気付いたことをカードにまとめる。
3　くまもとえきに行ってみよう ※時数のうち1時間は行事	2	熊本駅に実際に行き，駅員さんにインタビューをしたり，駅構内を見学したりして，気付いたことをまとめる。

イ　取組の実際

① 関連的指導

道徳・国語・学活で学んだ，場に応じた態度や公共施設の利用の仕方等を想起させ，児童館の利用の仕方についても考えた。

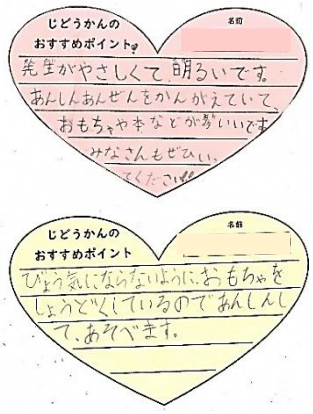
【資料23】画面越しにインタビューする様子

② 人的・物的資源の活用

益城町こども未来課と益城町児童館の協力の元，事前の取材から当日のオンライン会

議システムを利用したインタビュー活動まで，充実した学習を行うことができた。

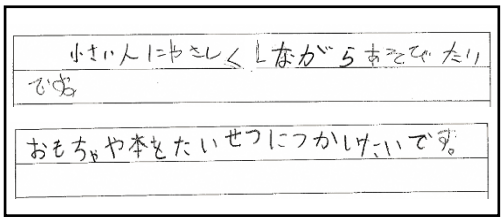
準備としては，事前に職員が児童館へ出向き，児童館職員の方への事前インタビューや施設の動画撮影をさせていただいた。それらを元に児童と事前学習を行い，後日，教室と児童館をオンライン会議システムでつないで，児童自らがインタビュー活動を行った（p15【資料23】）。画面越しではあるが，児童が児童館職員の方と実際に言葉を交わしながらインタビュー活動ができたことで，公共施設を支える人の存在をしっかりと受け止めることができた。



【資料24】おすすめポイント

③　気付きの質を高める工夫

学習の振り返りの視点として，「児童館のおすすめポイント」を書き，それを児童館に掲示してもらう活動を行った（【資料24】）。おすすめポイントを考える中で，児童は事前学習やインタビュー活動での気付きを再度捉え直し，公共施設の働きやよさ，それを支える人の存在を再認識しただけでなく，「大切に使いたい。」「遊びに来る人のことを考えて使いたい。」というような思いまで膨らませることができた（【資料25】）。



【資料25】振り返りシート

（7）**実践⑥「うごく　うごく　わたしの　おもちゃ」（11～12月）**

ア　単元構想

本単元で育成する資質・能力		
知識・技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	主体的に学習に取り組む態度
身近にある物を使って，動くおもちゃをつくる活動を通して，遊びやおもちゃをつくる面白さや，自然の不思議さに気付いている。	身近にある物を使って，動くおもちゃをつくる活動を通して，おもちゃがよりよく動くように改良したり，もっと楽しくなるように遊び方を変えたりなど，工夫しておもちゃや遊びをつくっている。	身近にある物を使って，動くおもちゃをつくる活動を通して，みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとしている。
単元構想の材料		
【児童の実態，学校・地域の特色】	【材の価値分析】	【教師の意図】
図画工作科においても工作への意欲は高い。 また，昨年度，現3年生におもちゃまつりに招待してもらった経験があるので，今度は自分たちが1年生を楽しませたいという思いを持っている。	おもちゃそのものや遊び方を何度も改良する過程が仕組め，その中で思考錯誤や創造的に考える場面が生まれやすい学習材である。遊び場を作り1年生を招待することで，より学習が充実すると考えられる。	おもちゃまつりの場を複数回設け，振り返りをすることで，おもちゃの制作や遊びの中で，試行錯誤したり，比べる・試す・工夫するなど創造的に考えたりする場面をたくさん作っていきたい。

資質・能力を育成する指導上の工夫（単元構想のポイント）		
①【主な合科的・関連的指導】	②【人的資源の活用】	③【気付きの質を高める工夫】
・図画工作「コロコロ大さくせん」 ・国語「馬のおもちゃの作り方」，「おもちゃの作り方をせつめいしよう」 ・3年理科へのつなぎ	・1年生をおもちゃまつりに招待することを単元のゴールとして設定 ※感染症予防のため，場づくりのみ行い，1年生だけで遊んでもらう。	・クラスでのおもちゃまつりと1年生を招待するおもちゃまつり（複数回設定） ・遊び方紹介動画の撮影

単元計画	時数	学習内容
1　うごくおもちゃをつくろう	3	動くおもちゃをつくり，動かして遊ぶ。
2　もっとくふうしよう	3	おもちゃで遊んで，工夫したり教え合ったりして，おもちゃの機能が高まるように試行錯誤して改良する。
3　あそび方をくふうしよう	4	みんなで楽しく遊ぶためのルールや遊び，準備することなどを話し合い，さらに楽しく遊ぶために，おもちゃを改良したり，ルールを考えたりする。また，遊んだことなどを振り返り，カードにかく。
4　1年生をしょうたいしよう	6	1年生に向けた遊び方紹介の動画撮影をする。1年生をおもちゃまつりに招待し，遊んでもらう。

イ　取組の実際

①　合科的・関連的指導

図画工作「コロコロ大さくせん」では，ビー玉が動くことでおもちゃが転がる面白さに気付いた。その気付きを生かし，動くおもちゃへの関心を高めていった。

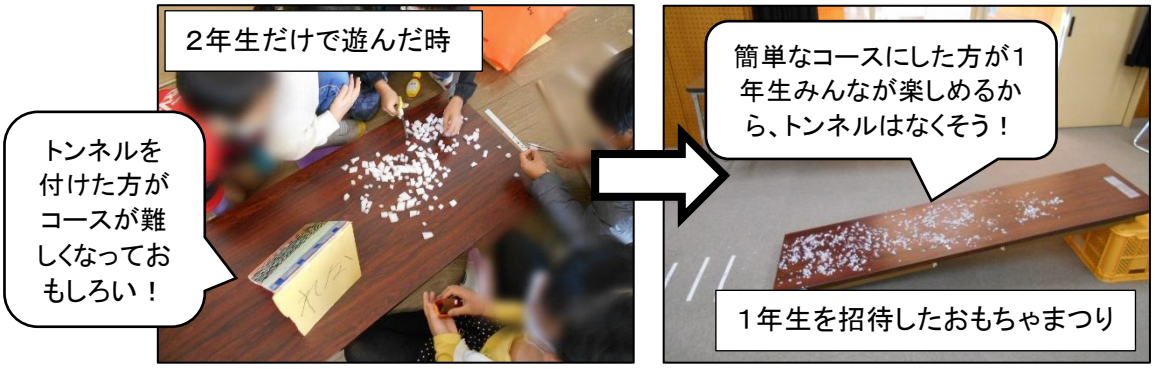
また，国語「馬のおもちゃの作り方」，「おもちゃの作り方をせつめいしよう」とは合科的に扱い，生活科で作ったおもちゃの作り方の説明を，国語で書いた（【資料26】）。その説明カードは，おもちゃまつりに来てくれた1年生にプレゼントしたいという児童の願いがあったのでそうすることにし，目的意識・相手意識も十分に持った上で書くことができた。

【資料26】国語「おもちゃの作り方をせつめいしよう」

②　人的資源の活用

1年生をおもちゃまつりに招待することを単元のゴールとしたことで，おもちゃがよりよく動くように改良したり，遊び方を1年生にも分かりやすい平易なものにしたりするなど，試したり工夫したりする姿がたくさん見られた（【資料27】）。

1年生には，おもちゃまつりの感想を書いてもらうことと，遊びの様子を動画撮影してもらうことを事前に依頼しており，それらを見て学習を振り返ることもできた。



【資料27】遊び場づくりの変化（坂道を転がして遊ぶコロコロコロン）

③　気付きの質を高める工夫

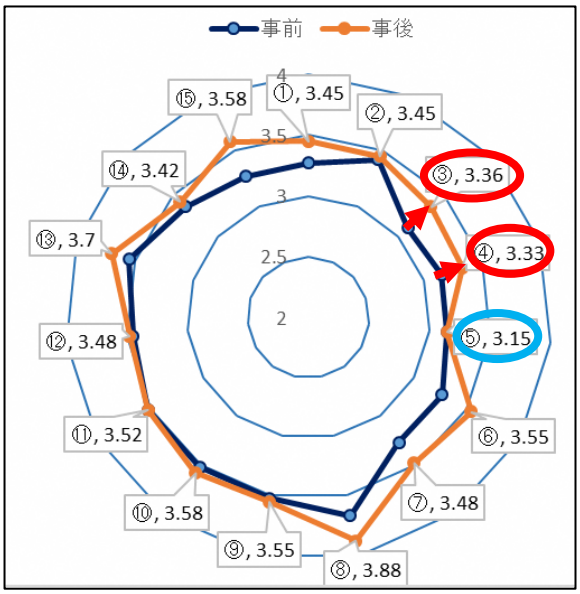
おもちゃは作りながら遊び，改良したい点をシートに書き出すなどして，何度も改良を重ねてきた。また，できあがったおもちゃで遊ぶおもちゃまつりは，クラスで1回，1年生の招待を2回（1年1組と4組）の計3回設けた。その都度振り返りを行い，どうすればおもちゃの動きがもっと良くなるか，遊び方で困ったことはなかったかなど，同じおもちゃを作るグループで話し合い，改良を重ねていった。

また，1年生をおもちゃまつりに招待する前には，看板などで説明するだけでは不十分なので，遊び方を動画で撮影し事前に見てもらう必要があることに気付いた。台詞を考えて1年生向けの説明動画を撮影する際にも，1年生に分かるような簡単な遊び方にルールを変えていく作業が自然と入り，そこでも思考の場面が自然と生まれていた。

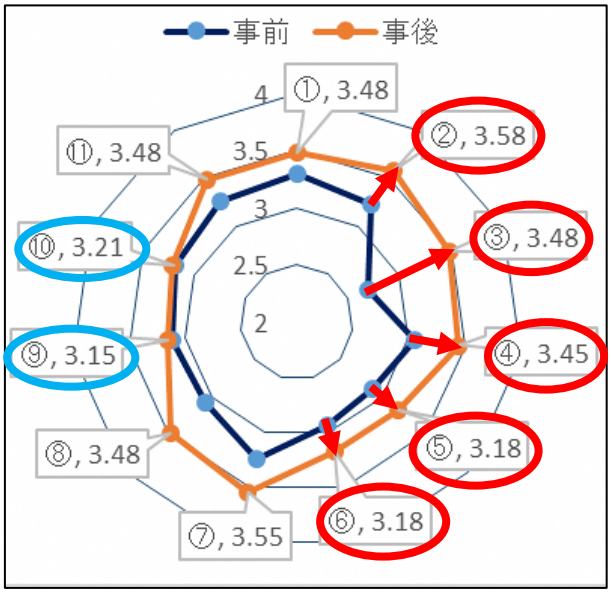
Ⅳ　研究のまとめ

1　事前アンケートと事後アンケートの比較

育成を目指す資質・能力（【資料28】）と自立の姿（【資料29】）に関する本学級児童の自己評価結果の比較をすると，全体として向上していることが分かる（質問項目と事前の平均値はp3【資料2～5】を参照）。また，学習上の自立に関する項目（【資料29】①～⑦）の中でも，②～④は特に高い上昇率が見られ，当初数値が低いと指摘していた⑤⑥も改善が見られた。学習上の自立に関する項目は，事前アンケートで低い数値が示された本校で育成したい資質・能力の中の「考える力①　基礎・基本を身に付け，課題解決のために，自ら考え，計画的に調べ，判断し，伝え合って解決することができる。」とも重なる部分（【資料28】③～④）であり，その伸びが見ら



【資料28】育成を目指す資質・能力の自己評価比較
（事前：令和2年6月，事後：令和2年12月）



【資料29】自立の姿の自己評価比較
（事前：令和2年6月，事後：令和2年12月）

れたことは，本研究の成果と言える。

一方で，下降してはいないものの，ほとんど変化が見られなかった項目が，自立の姿⑨「生活の時間，勉強してできるようになったことを家や学校でもやっているか。」，⑩「生活の時間，自分のいいところや成長したところに気付いたことがあるか。」である（【資料29】青丸部）。また，元々のポイントも低く，変化もなかった項目が，育成を目指す資質・能力⑤「考えたことや調べたことを友達と伝え合っているか。」である（【資料28】青丸部）。この三項目については，実践を省み，改善点を洗い出していく必要がある。

2　仮説の検証（視点ごとの振り返り）

（1）視点１　グランドデザインと生活科教育をつなぐ

成果	○学校教育目標を生活科教育の中で具体的に捉えることができた。 ○本校が育成を目指す資質・能力と生活科教育の関連を整理したことで，資質・能力をこれまで以上に意識しながら授業をすることができ，成果につながった。
課題	▲他教科等においても，本校が育成を目指す資質・能力との関連を整理すると，より効果的に資質・能力の育成を図ることができる。 ▲他の職員とも共有し，学校総体として取り組んでいく必要がある。

（2）視点２　生活科とその周辺をつなぐ

成果	○単元配列表を作成したことで，年間の学習活動を一目で見渡すことができ，全ての教科において合科的・関連的指導を意識した学習を計画することに有効だった。 ○児童の願いから単元を構想し，児童と一緒に年間構想を考えたことにより，児童も各教科等の資質・能力や見方・考え方のつながりを意識し，学習に臨むことができた。 ○縦のつながりを図で整理したことで，幼児教育とのつながりだけでなく，中学年以降の学習とのつながりを意識して実践ができた。
課題	▲幼児教育や中学年以降の学習との接続は，もっと細かく整理していくと，さらにつながりが明確になる。

（3）視点３　生活科の授業と（で）つなぐ

成果	○これまでも合科的・関連的指導は行っていたが，各教科等の資質・能力や見方・考え方のつながりを明確にして単元を構想し取り組むことで，より効果的に，そして相乗的に資質・能力を育成することができることを実感した。 ○地域コーディネーターの先生や外部の方のお力をお借りし，内外の人的・物的資源を発掘・活用したことで，気付きの質を高めることができた。 ○体験と表現の繰り返しを何回も何回も単元の中に仕組んでいくことで，思考の場面もたくさん生まれ，児童の気付きの質が高まり，それと比例して体験の質も高まっていった。 ○気付きの質・体験の質の高まりの中で，自立の姿（特に学習上の自立の姿）や資質・能力③④に伸びが見られたと考えられる。
課題	▲今年度は様々な体験活動に制限があったが，今後は新しい生活様式の中で実施可能な体験活動の形を模索し，よりよい体験活動を仕組んでいく必要がある。 ▲資質・能力⑤に関して，活動中自然な伝え合いは生まれていたが，新しい生活様式の中で，ペアや班で伝え合いをする場面の設定がかなり減ったため，児童が自覚できなかったと考えられる。 ▲自立の姿⑨に関して，教師の見取りとしては，生活科で身に付けたことを児童が実生活に生かす場面は多々見られたのだが，児童自身はそれを十分に自覚できていなかったため，伸びがあまり見られなかったと考えられる。 ▲自立の姿⑩の伸びがほとんど見られなかったのは，自分を振り返る場面の設定や振り返り方の工夫が不足していたからだと考えられる。

３　本研究全体の成果と課題及び改善策

（1）成果

〇グランドデザインとの関連を整理し，各教科等とのつながりを単元配列表で描き出したり幼児教育・中学年以降の学習とのつながりを描き出したりしたことで，育成を目指す資質・能力やそのつながりがより明確になった。このことによって，指導者が育成すべき資質・能力を強く意識した指導ができ，事後評価の伸びに結びついたと考えられる。

〇生活科は，他の教科等で身に付けた資質・能力を総合的に発揮していく場面が多く，カリキュラム・デザインを行う際に生活科を中核にすることは，全ての教科等の資質・能力を育成する上で有効であった。

〇生活科教育において様々なものを「つなぐ」ことは重要な要素であり，生活科を中核にしたカリキュラム・デザインを行うことにより学習効果の最大化を図ることができた。

〇単元構想の三つのポイントを意識することで，生活科の授業自体が豊かな体験と多様な表現にあふれるものとなり，気付きの質が高まり，深い学びの実現につながった。そして，深い学びが実現したことで，生活科が目指す三つの自立への基礎が養われ，自立し生活を豊かにしていく児童の育成につながっただけでなく，本校が目指す資質・能力を身に付けた児童の育成にもつながった。

（2）課題と改善策

▲他教科等とグランドデザインとの関連も整理し，全職員と共有していく必要がある。
→教科等主任と連携し，本校が育成を目指す資質・能力のさらなる育成に努めていく。

▲幼児教育や中学年以降の学習とのつながりをもっと細かく整理し，資質・能力や見方・考え方の縦のつながりをさらに明確にしていく必要がある。
→幼児教育と1年生の学習のつながり，２年生の学習と3年生の学習のつながりを再度整理し，つながりをより明確にしていく。

▲新しい生活様式の中でのよりよい体験活動の在り方と伝え合いの在り方を検討していく必要がある。
→ICTの活用も含め，新たな方法を模索していく。

▲よりよい生活を創造するために，学びが実生活に生かされていることを児童に自覚させる必要がある。
→単元構想の際に「くらしとつなぐ」という視点を盛り込むとともに，教師はより丁寧な見取りに努め，教師の言葉かけによって自覚を促していけるようにする。また，学びを実生活に生かしている児童の姿を整理・分析し，自立し生活を豊かにしていく児童の姿がどのように実現されていったか，再検証していく必要がある。

▲自分を振り返る場の設定や振り返り方の工夫が必要である。
→自分のよさや成長を感じ取れる振り返りの視点や場の設定等を検討していく。また，友達のいいところ見付けをするなど，自分の成長を他者の視点で振り返るなどの工夫も行っていく。

おわりに

昨年度から，本校のコミュニティ・スクール事業が本格的にスタートしました。老人会の方と一緒に昔遊びをしたり，婦人会の方に詩の暗唱を聞いていただいたり，読み聞かせボランティアの方のお話を聞いたり・・・。たくさんの方と触れ合うことを，児童は毎回とても楽しみにしていました。「来年度はどんな関わりが持てるだろうか。」と期待に胸を膨らませていた矢先の感染症拡大，臨時休校，緊急事態宣言。その後，学校の様子はこれまでと大きく変わりました。

「今年度は町探検には行けないかもしれない。」「サツマイモ栽培もできないかもしれない。」地域に出かけ，人と触れ合っていく学習が多い生活科の授業をどのように組み立てていけばよいか，休校期間中，ずいぶん悩みました。しかし，「あれもできない，これもできない。」ではなく，「こんなこともできた，あんなこともできた。」がいっぱいの一年になりました。

当初手元にあったものは，パソコンとデジタルカメラだけ。そこに知恵が加わりました。そして，学校内外の方の協力が加わりました。そうして，野菜の栽培，町探検，動画を使った町の人々への間接的なインタビュー，オンライン会議システムを活用した児童館訪問，１年生を招待したおもちゃまつりなど，たくさんの学習が実現していきました。それらは全て，児童の願いに後押しされて実現したものです。大変な状況の中でも，児童の願いから出発する生活科教育が実現できたことを誇りに思います。そして，たくさんの願いを聞かせてくれた児童のみんな，快くお力をお貸しくださったたくさんの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。さらに，今後はタブレット端末が加わります。新しい生活様式の中でもできることがさらに増えそうだと期待しているところです。

さて，初等中等教育分科会から令和２年１０月に「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（中間まとめ）」が出されました。新しい時代の教育の在り方を再度見つめ直すとともに，今後も児童の声に耳を傾ける姿勢を大切にし，児童の願いから出発し願いを実現する生活科教育を創り上げていきたいと思います。

本研究を通して，生活科教育を中核として低学年教育を行うことの大きな意義とやりがいを感じることができました。本研究を進めるにあたり，ご指導・ご支援いただきました全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

引用・参考文献

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編　文部科学省（平成29年7月）

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編　文部科学省（平成29年7月）

平成29年版　小学校新学習指導要領の展開　生活編　田村学編著（明治図書　平成29年10月）

「深い学び」を実現するカリキュラム・マネジメント　田村学著（文溪堂　平成31年3月）

カリキュラム・マネジメント入門　田村学編著（東洋館出版社　平成29年3月）

生活・総合「深い学び」のカリキュラム・デザイン　田村学編著　横浜市黒船の会著（東洋館出版　平成29年8月）

自律的活動を意識した生活科授業の展開　本山浩文

ここから始める生活科　末永昇一著（学校図書　平成30年9月）